

考えを交流しながら自分の考えを深めていく子

～ひき算の筆算の学習を通して～

2年生の実践

はじめに

2年生8名の実践である。大変意欲的に算数の学習に取り組み、問題を速く解きたい、たくさん発表したいという児童が多い。学力も高く、当校の課題である数学的な考え方についても、H18年度のCRT学力検査では、全員が全国平均値を上回った。

一方、計算方法を考える場面では、多様な考えを出し合うまでには至らなかった。一つの解法で満足したり、間違ふことを恥ずかしがったりする傾向があるためだと考える。また、自分の考えを分かりやすく伝えたり、よりよい方法を考え合ったりする経験も少ない。

そこで、今回の実践では、目的意識をもち学習し、多様な考えを出し合い交流することを通して、考えを深めることをねらいとして取り組んだ。

1 実践の概要（お店屋さんを開こう「ひき算のひっ算」）

児童が、意欲的に考え、意見を交流し合うなかで、学習内容が身に付いていくように次のような手立てを考えた。

(1) 単元のゴールの設定

児童が、単元を通して目的意識を持って学習できるよう単元のゴールを「お店屋さんをひらこう」と設定する。お店屋さんになるためには、ひき算ができなければならない。一つずつ新しい形のひき算のやり方を覚えていき、最終的にマスターしたら、お店を開けるというようにする。また、この単元は、複合単元的に扱うこととする。次の表のように計画を立て、興味関心や目的意識をもって、1学期の学習のまとめができるようにする。

お店屋さんを開こう	学習活動	関係する単元
○チラシを作ろう	アンケートによる商品決定。	「表とグラフ」
	イラストを描く。	「いろいろな形」
○開店時間を決めよう	時計を使って開店時間を考える。	「時計」
○買い物ごっこをしよう	商品を売ったり買ったりする。	「たし算の筆算」 「ひき算の筆算」(本時)

(2) 教具を使った自力解決の手立て

児童が、自分の方法を考え具体的操作活動を通して自力解決ができるように、次のような教具を準備し、選択して使えるようにする。

※準備した教具・・・ブロック、数え棒、お金の模型、ブロック図、筆算シート

(3) 友達とのかかわり合い

考えを話す立場と聞く立場でポイントを示す。話す側には、より分かりやすく話すよう教具やキーワードを工夫させる。聞く側には、アドバイスやよかったところが発表できるように意識させる。

2 指導の実際

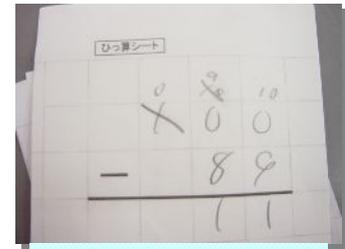
◎早くやりたい！お店屋さん

「お店屋さんを開こう」とゴールを示して学習を行ったこと



お友達さん「いらっしゃいませ！」

により、児童が意欲的に学習することができた。また、複合単元としたことにより、商品決めやポスター作りなど楽しみながら学習することができた。実際にお店屋さんごっこしたときには、筆算シートでおつりを計算する様子が見られた。



筆算でおつりを計算

◎繰り返し書いたブロック図

引き算の筆算を「できる」ようにさせるだけでなく、「分かる」ようにさせるために、ブロック図を全員に書かせた。具体物操作と筆算を結ぶものであり、繰り返し下がりのある筆算の理解を深めることができた。



どの教具を使おうかな



ブロック図を書いたよ

◎互いに高めあった集団解決場面

発表者は、回を重ねるにしたがって、自分が選択した教具を上手に活用し、相手に分かりやすく話すことができるようになっていった。また、発表者は、発表することにより自分の考えを整理することができた。

聞く側は、アドバイスをするために、友達の発表をしっかりと聞くことができた。また、相手の発表のよかった点も伝えられるようになり、互いに考えを深め合うことができた。



アドバイスはありませんか？

3 成果と課題

○いくつかの単元を組み合わせた複合単元を展開したことにより、学習のまとめとしての効果も上がった。また生活の中で学習したことをどのように生かしていくか子どもたちが考え学んでいく上でも、複合単元は有効であった。

○教具を自分で選択し、新しい問題にチャレンジさせたことで、低位の子も意欲的に学習に参加できた。また、それぞれの方法の共通点を子どもたちなりに見付けることで、数学的な思考力を働かせることができた。

●友達のアドバイスによって、しっかり聞くという姿勢ができてきた子どもたちであるが、間違いやうまくいっていないところを指摘することが多かった。集団解決場面での話し合いが深まる手立てをさらに探っていく必要がある。また、友達の考えのよい点を伝えられるようになるよい。

●ノートを活用しながら、自分の考えをまとめたり、授業を振り返ったりする機会を作っていく。